

現代の視点で考える 桜島大正噴火



京都大学 防災研究所
火山活動研究センター教授

井口 正人

6/3 (金) 2016

18:00 - 19:30

名古屋大学減災館 1 階減災ホール

予約不要
入場無料

1914年に発生した桜島の大正噴火は20世紀以降で、我が国最大規模の噴火である。このことは、日本人はこの規模の噴火を経験していないことを意味する。大正噴火の前には、火山ガス事故、有感地震の群発、井戸水の濁水と直前の溢れ出し、温泉の噴出など、様々な異常現象が報告されている。これを現代の火山学の視点から考察し、今後起こる大規模噴火の早期警戒につなげたい。

一方、大規模噴火によって桜島島内では7つの集落が溶岩流や軽石の堆積により埋没し、火山灰は、東北地方南部まで達したことが報告されている。インフラが高度に発達した現代社会においては、大正時代には想像もできなかったものを守っていく必要がある。現代の生活を大規模噴火からいかに守っていくかを考えてみたい。

主催：名古屋大学 減災連携研究センター

★お問い合わせ：TEL: (052) 789-3468

※講演の撮影・録音はご遠慮ください。

※駐車場はありません。必ず公共交通機関をご利用ください。